



2025年12月12日

各 位

会 社 名 株式会社FUNDINNO
代表者名 代表取締役CEO 柴原 祐喜
(コード番号: 462A 東証グロース市場)
問合せ先 執行役員コーポレート本部長 高木 崇
(TEL: 050-3644-4388)

2025年10月期 決算説明資料（書き起こし）公開に関するお知らせ

当社は、2025年12月12日、2025年10月期 決算説明会を動画配信という形で公表いたしました。

当該説明内容について、株主ならびに投資家の皆様への公平な情報開示の観点から、決算説明資料（書き起こし）として公開することといたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 2025年10月期 決算説明資料（書き起こし）の概要

当資料は、本日公開しました2025年10月期決算説明会の中で説明を行いました内容を書き起こし資料としてまとめ、その内容を共有するものであります。

ご理解いただきやすいよう、一部内容の加筆・修正を行っております点、ご容赦ください。

2. 参考情報

決算説明動画URLを以下に掲載しておりますので、併せてご確認いただきますようお願い申し上げます。

【2025年10月期決算説明会】

1. 公開日時: 2025年12月12日(金) 15:30~

2. 説明者 : 代表取締役 CEO 柴原 祐喜

■決算説明会動画はこちらからご確認いただけます

2025年10月期 決算説明会

<https://irtv.jp/channel/21719>

■本件に関するお問い合わせ先:

株式会社FUNDINNO IR担当

TEL: 050-3644-4388 E-Mail: info@fundinno.com

以 上



2025年10月期 決算説明資料

株式会社FUNDINNO | 2025年12月

FUNDINNO | ©2025 FUNDINNO, Inc

株式会社 FUNDINNO 代表取締役 CEO の柴原でございます。

これより、2025年10月期 通期決算について、ご説明いたします。

上場のご挨拶

株式会社FUNDINNOは、2025年12月5日に東京証券取引所グロース市場に新規上場いたしました。

これもひとえにお客様、パートナー企業の皆様をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様のご支援、ご高配の賜物と心より御礼申し上げます。

当社は2015年11月に設立。「フェアに挑戦できる、未来を創る。」をビジョンに掲げ、起業家の挑戦に多様な選択肢を提供すること、そして、投資家の応援を、起業家へと届けることに取り組んでまいりました。

今回の株式上場を機に、上場企業としての社会的責任をより一層自覚し、今後もステークホルダーの皆様のご期待にお応えすべく、企業価値の向上と持続的な成長に挑んでまいります。

ここに謹んでご挨拶申し上げますとともに、ステークホルダーの皆様におかれましては、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

株式会社FUNDINNO | 代表取締役CEO 柴原 祐喜
| 代表取締役COO 大浦 学

FUNDINNO | ©2025 FUNDINNO, Inc.



当社は、2025年12月5日に、東京証券取引所 グロース市場へ新規上場いたしました。

今回の株式上場を機に、上場企業として社会的責任をより一層自覚し、
今後もステークホルダーの皆様のご期待にお応えすべく、
企業価値の向上と、持続的な成長に取り組んで参ります。

ここに謹んでご挨拶申し上げますとともに、
ステークホルダーの皆様におかれましては、
より一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

会社概要



登録・免許
基本情報

会社名	株式会社FUNDINNO
設立	2015年11月26日
所在地	東京都港区
資本金及び資本準備金の合計額	99億8,847万円 (2025/10/31現在)
従業員数	123名 (後員数 < 2025/10/31現在)
子会社・関連会社	株式会社FUNDINNO GROWTH
第一種金融商品取引業	関東財務局長(金商)第2957号
有料職業紹介事業	許可番号 13-ユ-310754 (FUNDINNO GROWTH)
第一種少額電子募集取扱業	—
日本証券業協会	協会員

FUNDINNO | ©2025 FUNDINNO, Inc

代表取締役CEO

柴原 祐喜 (しばはら ゆうき)

2009年カリフォルニア大学卒業。2012年明治大学大学院グローバルビジネス研究科修了。大学院での研究テーマは「未上場企業の価値算出」。2012年システム開発・経営コンサルティング会社を設立。その後、大浦とともに、2015年株式会社日本クラウドキャピタル(株式会社FUNDINNO)を設立。代表取締役CEOに就任。

日本証券業協会参画会議体（委員）

スタートアップ企業等への成長資金供給等に関する懇談会

エクイティ分科会

非上場株式の発行・流通市場の活性化に関する検討懇談会

代表取締役COO

大浦 学 (おおうら まなぶ)

2011年明治大学商学部卒業。2013年明治大学大学院グローバルビジネス研究科修了。大学院での研究テーマは「マーケティング」。同研究科で、後の株式会社FUNDINNO代表取締役CEO柴原と出会い、柴原とともに、システム開発・経営コンサルティング会社を設立。2年目には墨字化を達成。その後、ベンチャー企業の成長に貢献したいという強い思いにより、2015年に柴原と共に株式会社日本クラウドキャピタル(株式会社FUNDINNO)を設立。代表取締役COOに就任。2020年情報経営イノベーション専門職大学客員講師就任。

3

こちらは、当社の概要でございます。

未上場株式市場へのリスクマネー供給量増加に向け、各種団体に所属しております。



01 ハイライト情報

02 2025年10月期 決算概要

03 2026年10月期 業績予想

04 TOPICS

05 APPENDIX

それでは、2025年10月期のハイライト情報について、ご説明いたします。

未上場企業のリスクマネーの循環を DXプラットフォームにより実現する イノベティブなビジネスモデル

当社は、未上場株式市場において、
テックタッチを基盤に、証券・印刷・信託・取引所の機能を統合した
次世代型金融プラットフォームを構築しております。



さて、まず前提として、
私たちは、未上場株式市場において、テックタッチを基盤に、
証券・印刷・信託・取引所の各機能を統合した、
次世代型金融プラットフォームを構築しております。

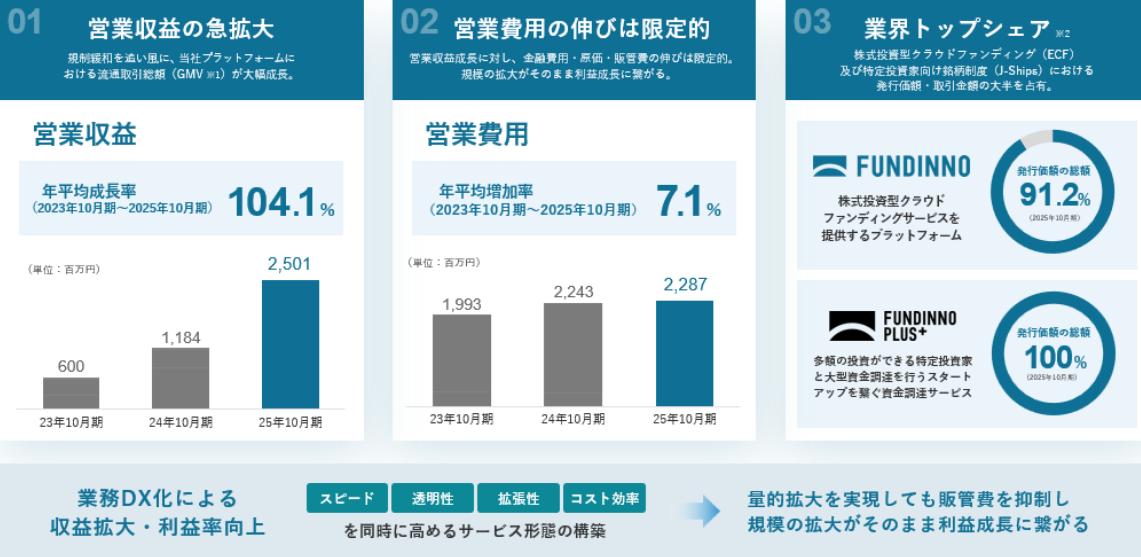
次世代産業を担うスタートアップに継続的なリスクマネーを供給できる仕組みの整備は、
日本経済の成長と、国際競争力強化の鍵でございます。

スタートアップ企業へのリスクマネー供給量の増加、
投資家と未上場企業との間の情報対称性の確保、
未上場株式の流動性促進など、
未上場株式市場を取り巻く課題の解決と、未上場株式市場の拡大に取り組んでいます。

我々は、未整備の未上場株式市場において、
テクノロジーの力で、ゼロからリスクマネーの循環を生み出す仕組みの構築を目指して
実証を積み重ね、
2015年11月の設立から10年が経過した今、
ようやく実務に耐えうる仕組みを確立いたしました。

ワンプラットフォームで資金供給のみならず、その後の成長、多様なExitに繋げるべく
機能拡張を日々続けております。

Executive Summary



FUNDINNO | ©2025 FUNDINNO, Inc

6

では、2025年10月期 通期決算ハイライト情報でございます。

皆様に特にお伝えさせていただきことは、主に4点でございます。

まずは、「高成長」である点でございます。

今期の営業収益は、25億100万円で着地いたしました。

詳細は後ほどご説明させていただきますが、

23年10月期から2倍ペースで成長しております。

続いて、営業収益の成長性に比して、営業費用の伸びは限定的である点でございます。

金融費用・原価・販管費の3年平均増加率は7.1%と

量的拡大がそのまま収益に繋がる仕組みを構築しております。

そして、当社主力事業であります、「FUNDINNO」及び「FUNDINNO PLUS+」において業界内でトップシェアのポジションを確立しております。

これら3点を支えているのは、

テクノロジーを用いて未上場株式市場において

ゼロから構築してきた金融プラットフォームでございます。

これにより、業務のスピード・透明性・拡張性・コスト効率を同時に高めております。

リスクマネーの供給構造図

家計等の金融資産を未上場企業への成長資金として直接供給できる、新たな金融インフラを構築。



FUNDINNO | ©2025 FUNDINNO, Inc

* 出典：経済産業省 第四次産業革命に向けた リスクマネー供給に関する研究会(2017年3月末時点)

7

当社は、創業時から個人が直接未上場企業へ投資を行えるプラットフォーム
「FUNDINNO」を展開してまいりました。

2015年に未上場株式の発行を通じた資金調達を行う
「株式投資型クラウドファンディング制度」が創設されたのを皮切りに、
当社が一号案件として調達を行いました。

リスクマネー供給モデルの構築

次世代産業を担うスタートアップに継続的なリスクマネーを供給できる仕組みの整備は、日本経済の成長と国際競争力強化の鍵。世界に通用するモデルを構築し、グローバル市場の進化の牽引を目指す。



未上場株式への投資機会を創出

FUNDINNO | ©2025 FUNDINNO, Inc

※ レイター：权益モデルを確立しIPOやM&Aを視野に入れる段階。アーリー：ビジネスモデルを検討し初期顧客獲得を目的とする段階。〔当社定義〕

8

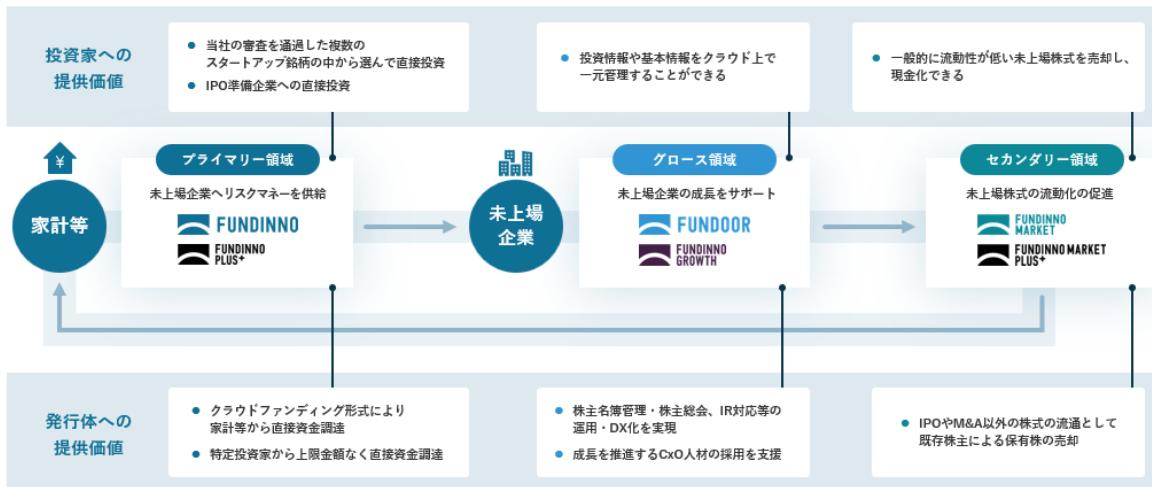
一方、企業の調達額・個人の1社あたりの投資額には上限がある状況でした。

そんな中、2022年「特定投資家向け銘柄制度」が新設。

条件を満たした特定投資家が、2年以内の上場を見据える企業に上限なく投資が行えるようになり、当社では、「FUNDINNO PLUS+」としてサービスを開始いたしました。

ビジネスモデルの構造図

リスクマネーの循環サイクル構築を実現する、3領域の事業を展開。

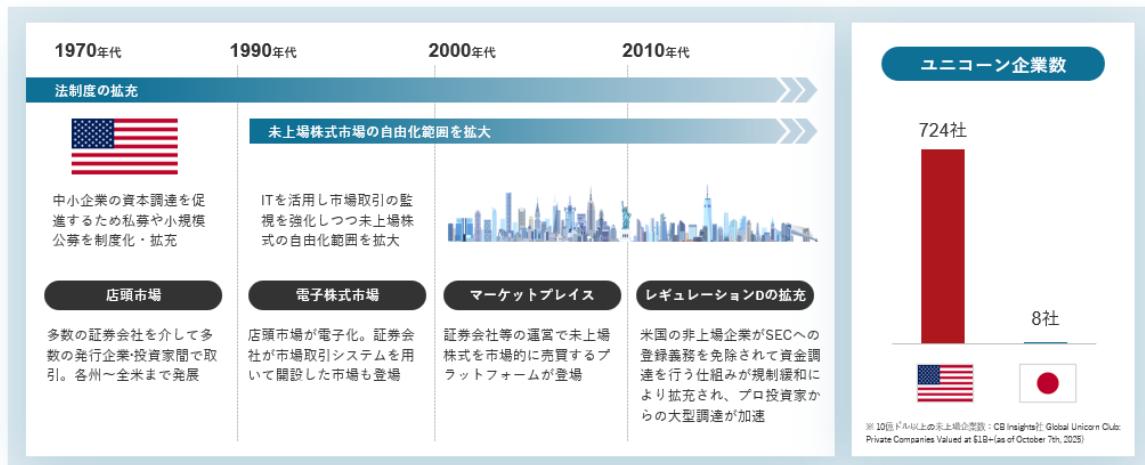


さらに当社では、調達機能のみならず、
投資家様目線で申し上げますと、
未上場株式を買って、管理できて、売れて、というリスクマネー循環サイクルを意識し
事業を展開しております。

なお、当社グループでは、「未上場企業エクイティプラットフォーム事業」の単一セグメントであるため、
セグメント別の記載はしておりません。

米国でのスタートアップ企業を取り巻く状況

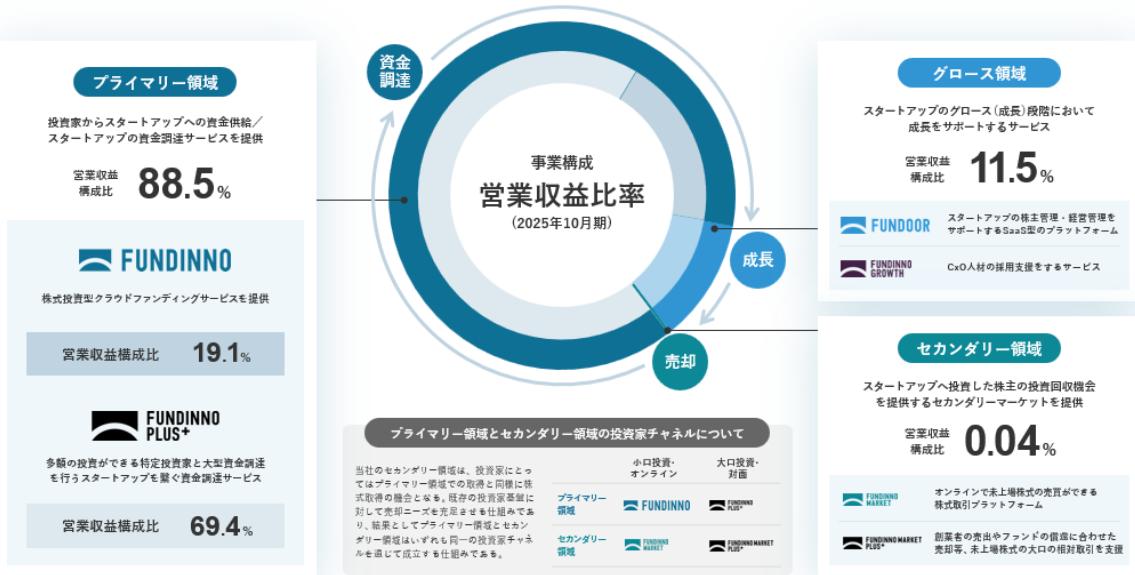
米国では、1970年代から未上場株式市場の改革を進めており、その結果、未上場企業は積極的な成長投資を繰り返し、多くのユニコーン企業へと成長。



未上場株式市場におけるリスクマネー供給構造については
アメリカでは1970年代から既に改革が進められており、
その結果、未上場企業は積極的な成長投資を繰り返し、
多くのユニコーン企業へと成長しております。

当社では、リスクマネー循環サイクルを実現し、
マーケットの発展に寄与していきたいと考えております。

事業構成：営業収益比率



FUNDINNO | ©2025 FUNDINNO, Inc

11

25年10月期の営業収益比率でございます。

当社は1つのセグメントにおいて、プライマリー・グロース・セカンダリーの3領域を展開しております

プライマリー領域において、

- ・小口かつオンライン販売が「FUNDINNO」
- ・大口かつ対面販売が「FUNDINNO PLUS+」

セカンダリー領域において

- ・小口かつオンライン販売が「FUNDINNO MARKET」
- ・大口かつ対面販売が「FUNDINNO MARKET PLUS+」

というように、大口のサービスにPLUSがついております。

現状は未上場株式市場へのリスクマネー供給量を増やすべく、

プライマリー領域に注力しておりますが、

セカンダリー領域へも、

プライマリー領域のノウハウ・基盤を速やかに展開できるよう準備を進めております。



01 ハイライト情報

02 2025年10月期 決算概要

03 2026年10月期 業績予想

04 TOPICS

05 APPENDIX

では、25年10月期の決算概要につき、ご説明して参ります。

2025年10月期 業績ハイライト

「FUNDINNO」の運営基盤を活かし、同等の運営負荷で大型案件を扱える「FUNDINNO PLUS+」を開始。

創業期は投資家獲得やシステム開発への成長投資を優先したため営業赤字が続いたものの、
大型案件が成長し、営業利益が大きく改善した結果、2025年10月期において黒字化を達成。



25年10月期の営業収益は、25億100万円で、
前期比111.1%と、2倍以上の成長を実現いたしました。

営業利益につきましても、2億1,300万円と、
25年10月期において、黒字化を達成いたしました。

創業期は、投資家獲得やシステム開発への成長投資を優先したため営業赤字が続いたものの、
大型案件が成長し、営業利益が大きく改善。
今後は利益を積み上げるフェーズへと変化しております。

2025年10月期 財務ハイライト

業績予想に対し、営業収益達成率は99.5%と概ね計画通り、
営業利益達成率は123.3%と計画を大きく上回って着地。

(単位：百万円)	2024年10月期	2025年10月期	前期比
営業収益	1,184	2,501	+111.1%
営業利益	△1,059	213	-
経常利益	△1,076	211	-
親会社株主に帰属する当期純利益	△1,421	395	-

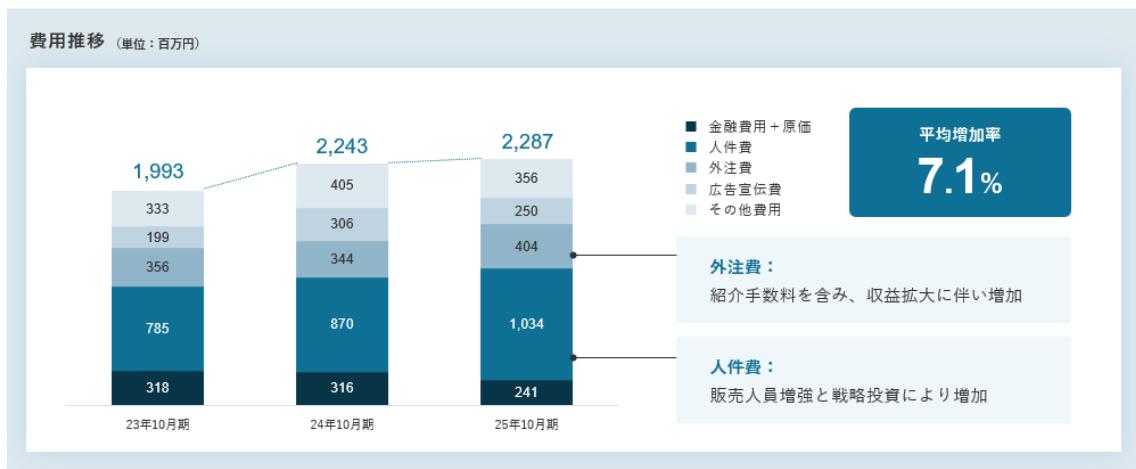


通期業績予想に対し、

- ・営業収益達成率 99.5%
- ・営業利益達成率 123.3%
- ・親会社株主に帰属する当期純利益達成率 114.6%と、
営業収益は概ね計画通り、その他は計画を上回って着地いたしました。

費用推移

テクノロジー主導の事業運営を行ってきたことで、FUNDINNO PLUS+において量的拡大を実現しても、営業費用の3年平均増加率は7.1%と限定的な増加にとどまる。



続いて営業費用の内訳でございます。

冒頭でもお伝えいたしました通り、営業費用の3年平均増加率は7.1%と量的拡大を実現しても、費用は限定的な増加にとどまっております。

人件費の増加要因といたしましては、

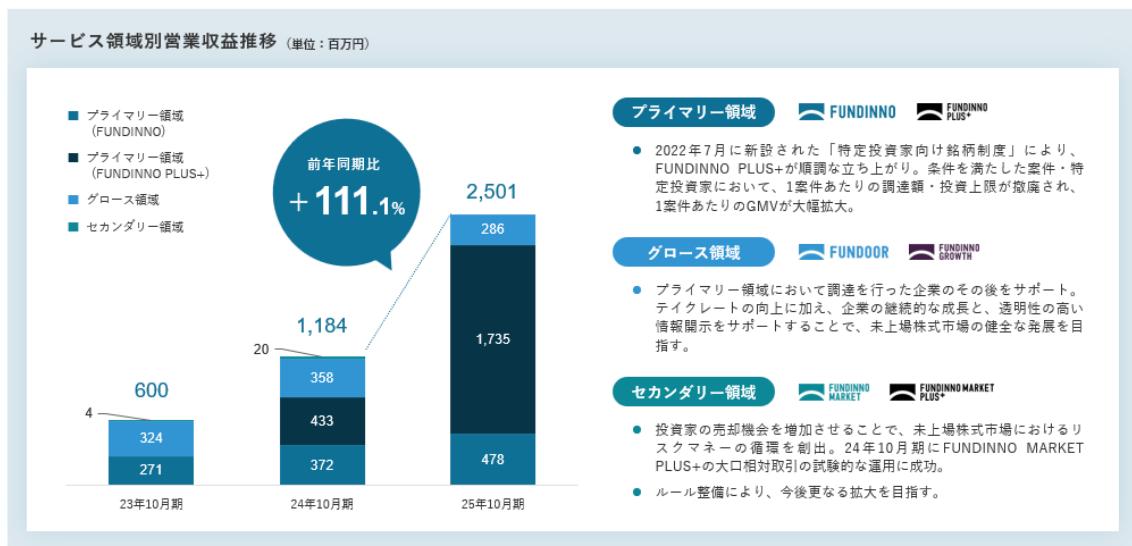
「FUNDINNO PLUS+」の特定投資家向け対面販売人員を強化したこと、新規事業に向けた戦略投資も含んでおります。

外注費には、アライアンス先である

IFAや地方銀行などから投資家様や案件をご紹介いただいた際に発生する手数料を含んでおり、営業収益に連動し増加しております。

引き続き、販売力強化のため、投資家様に勧誘を行う投資家営業の採用、パートナー企業との連携強化に取り組んでいく予定であります。

サービス領域別 営業収益推移



FUNDINNO | ©2025 FUNDINNO, Inc

16

次に、領域別の営業収益の推移をお示ししております。

「FUNDINNO」の運営基盤を活かし、
同等の運営負荷で大型案件を扱える「FUNDINNO PLUS+」を開始したこと
成長が加速しております。

KPI

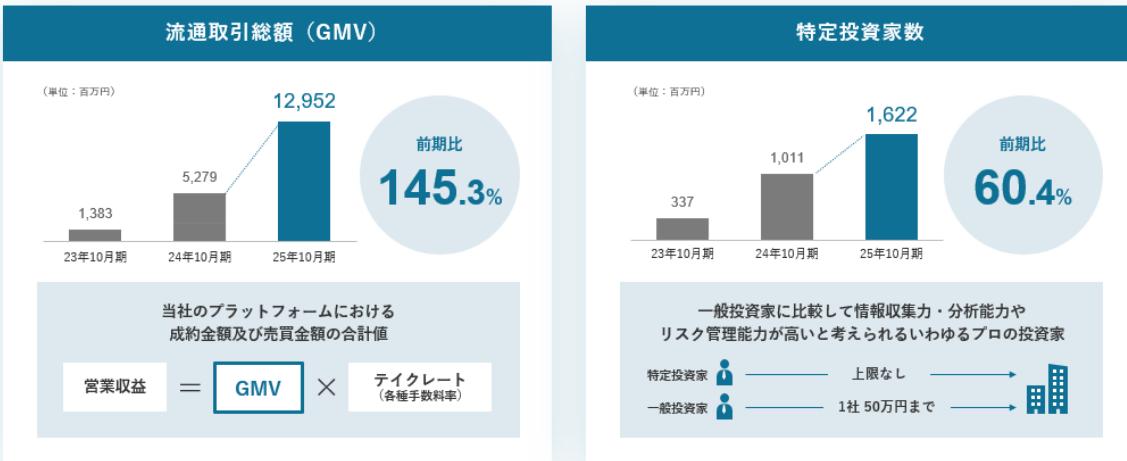
「GMV（流通取引総額）」の拡大を起点に、営業収益の最大化を図る。



当社は、25年10月期から27年10月期にかけて、
「流通取引総額=GMV」の拡大に取り組むことで
未上場企業の投資調達額の増大を図っております。

KPI推移 GMV・特定投資家数

FUNDINNO PLUS+で投資を行う特定投資家数は、FUNDINNOのアセットを梃に毎期順調に増加。特定投資家增加に比例し、GMVも急速に拡大。



現時点において、投資ポテンシャルの拡大に直結する「特定投資家の増加」を重要KPIに位置付けております。

大型資金調達が可能な「FUNDINNO PLUS+」においては、特定投資家ののみが投資を行うことができます。

よって、資金調達の成約の蓋然性を高め、GMVの更なる拡大を図るために、特定投資家の増加が必要です。

「FUNDINNO」で口座開設いただいている一般投資家に対し、資産・投資状況を入念に確認した上で、適宜特定投資家への転換を促進するとともに、IFAや地方銀行などのアライアンスにより営業チャネルを強化したことで、25年10月期の特定投資家数は1,622名と、前期から611名増加いたしました。

今後も、「FUNDINNO」の基盤を梃に、更なる特定投資家の増加を図ってまいります。

BS・CF

自己資本規制比率を維持し、安定的な財務状況を確保。

(百万円)	2024年10月期	2025年10月期	増減額	(百万円)	2024年10月期	2025年10月期
流動資産	4,443	5,055	+611	営業活動による キャッシュ・フロー	△829	402
固定資産	165	371	+205	投資活動による キャッシュ・フロー	△139	△31
資産合計	4,609	5,426	+816	財務活動による キャッシュ・フロー	1,327	175
流動負債	343	584	+241	期末現金・ 現金同等物残高	3,951	4,497
固定負債	1	0	△1			
負債合計	344	584	+239			
純資産	4,265	4,842	+576			
負債・純資産合計	4,609	5,426	+816			

BS 及び CF の状況です。

自己資本規制比率を維持し、安定的な財務基盤となっております。

現預金は 44 億 9,700 万円と、資産に占める割合は、83%となっております。



- 01 ハイライト情報
- 02 2025年10月期 決算概要
- 03 2026年10月期 業績予想
- 04 TOPICS
- 05 APPENDIX

続いて、26年10月期の業績予想についてです。

業績予想

(単位：百万円)	2025年10月期 実績	2026年10月期 計画	前期比
営業収益	2,501	3,892	+55.6%
■ プライマリー領域	2,213	3,531	+59.5%
■ グロース領域	286	360	+25.6%
■ セカンダリー領域	0	1	+33.1%
営業利益	213	1,132	+430.1%
経常利益	211	1,131	+435.5%
親会社株主に帰属する当期純利益	395	1,147	+189.9%



業績予想の ポイント

- 26年10月期においても、[営業収益 +55.6%、営業利益 +430.1%と増収増益を見込む](#)
- FUNDINNO投資家をアセットとした、特定投資家数の拡大により、[FUNDINNO PLUS+のGMVの継続的な拡大を目指す](#)

26年10月期は、

- ・ 営業収益 前期比 55.6%増の 38 億 9,200 万円
- ・ 営業利益 前期比 430.1%増の 11 億 3,200 万円
- ・ 親会社株主に帰属する当期純利益 189.9%増の 11 億 4,700 万円

を見込んでおります。

継続してプライマリー領域、
中でも大型資金調達支援である「FUNDINNO PLUS+」を中心に
GMV の拡大に取り組んでまいります。



01 ハイライト情報

02 2025年10月期 決算概要

03 2026年10月期 業績予想

04 TOPICS

05 APPENDIX

最後に、TOPICS 情報でございます。

トピックス

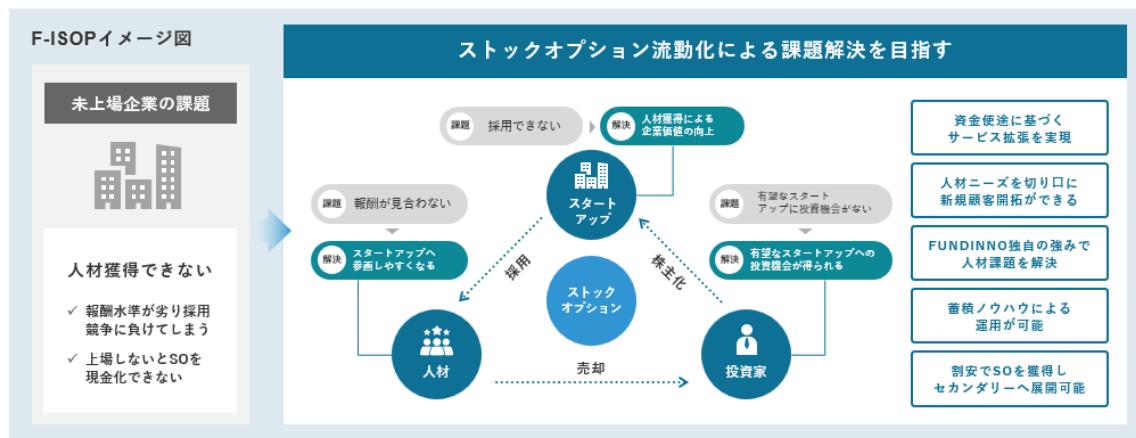
リリース日	カテゴリー	タイトル	詳細
2025年8月15日	事業連携	ファースト・チルドレンと事業連携。投資家の紹介に関する契約を締結	当社HP参照
2025年8月19日	FUNDINNO PLUS+	FUNDINNO PLUS+累計成約額100億円突破。 国内初の「特定投資家向け銘柄制度」取り扱いから約1年半で達成	当社HP参照
2025年9月11日	新規事業	プロ向け未上場株式のセカンダリー取引所「FUNDINNO MARKET PLUS+」を開始。 株式およびストックオプション行使後の売却も対象に	当社HP参照
2025年9月11日	新規事業	SOを用いた採用サービスの開発プロジェクトを開始	P24 当社HP参照
2025年9月16日	事業連携	FUNDINNO×フィリップ証券、 東京証券取引所に既上場済みおよび上場準備企業への新たな資金調達方法の支援	当社HP参照
2025年9月17日	事業連携	きらぼしコンサルティングとビジネスマッチング契約を締結	当社HP参照

特定投資家・案件獲得に向けた金融各社とのアライアンス強化、
未上場株式市場における流動性確保に向けた新規事業等にも積極的に取り組んでおります。

トピックス | SOを用いた採用サービスの開発プロジェクトを開始（2025年9月11日リリース）

未上場企業の成長のために、ストックオプション（以下、SO）を用いた採用サービスの開発を開始。

FUNDINNO Innovation Stock Option Project (F-ISOP) で採用、SOの設計から管理、そして行使とその後の売却までを実現し、採用力強化と事業成長を実現しやすい世界を作ります。



未上場企業の成長のために、
ストックオプションを用いた採用サービスの開発を開始いたしました。

ストックオプションの設計から管理、そして行使とその後の売却までを実現し、採用力強化と事業成長を実現しやすい世界を目指します。

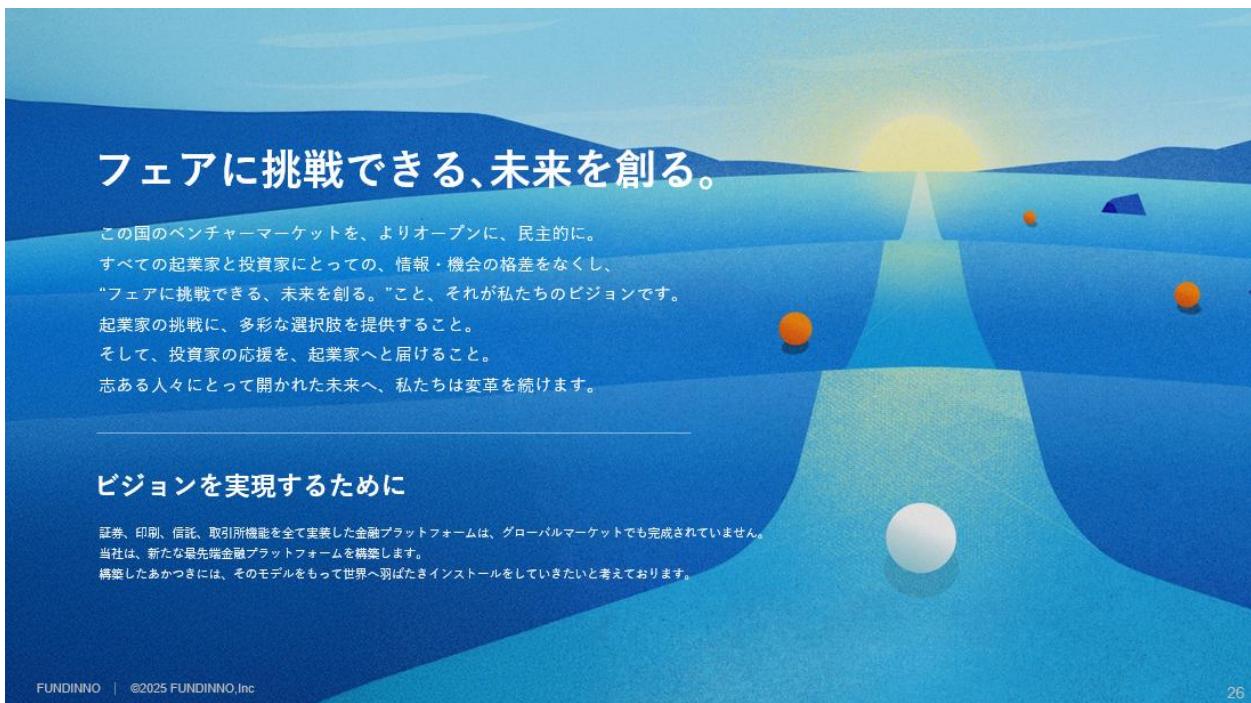
隣接業界との連携強化

事例紹介

「FUNDINNO PLUS+」において大型の資金調達を実現するとともに、未上場株式専門の証券会社として、全国の特定投資家の皆様に投資機会を提供し、我が国の経済発展に貢献すべく活動。数多くの証券会社・信託銀行・VC・CVC・事業会社・IFA、その他金融機関との連携を実現。

証券会社・信託銀行	VC	事業会社・CVC
NOMURA 三井UFJ信託銀行	PGR TNP iVS	・HAKUHODO・ CARTA VENTURES raccoon HOLDINGS TASUKI
銀行・信用金庫	IFAC	
埼玉りそな銀行 阿波銀行 城南信用金庫	百十四銀行 SEIBU 西武信用金庫	YSK LIFE CONSULTANTS fan Co.,Ltd. PEREGRINE AIPF

また、隣接業界との連携も、引き続き強化してまいります。



フェアに挑戦できる、未来を創る。

この国のベンチャーマーケットを、よりオープンに、民主的に。

すべての起業家と投資家にとっての、情報・機会の格差をなくし、

“フェアに挑戦できる、未来を創る。”こと、それが私たちのビジョンです。

起業家の挑戦に、多彩な選択肢を提供すること。

そして、投資家の応援を、起業家へと届けること。

志ある人々にとって開かれた未来へ、私たちは変革を続けます。

ビジョンを実現するために

証券、印刷、信託、取引所機能を全て実装した金融プラットフォームは、グローバルマーケットでも完成されていません。

当社は、新たな最先端金融プラットフォームを構築します。

構築したあ까つきには、そのモデルをもって世界へ羽ばたきインストールをしていきたいと考えております。

2025年10月期 通期決算説明は以上でございます。

我々は、ビジョンを実現するために、

証券、印刷、信託、取引所機能を全て実装した金融プラットフォームは、

グローバルマーケットでも完成されていません。

当社は、新たな最先端金融プラットフォームを構築していきたいと考えております。

構築したあ까つきには、そのモデルをもって世界へ羽ばたき

インストールをしていきたいと考えております。

どうか、応援の程、よろしくお願ひいたします。



将来見通しに関する注意事項本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。

これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。

それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。